

今日は母の日です。日ごろの感謝の気持ちを表す日として今までは過ごしていたかもしれませんが。今日は母に感謝をしつつ、母がどのように考え、どのような思いを持って周りの人たちに接しているのかを考えていきたいと思えます。そして私たちみな母の役割を担っているということに気づいてほしいと思っています。当然、男性が肉体的に母（女性）になれるわけではありません。そうではなく、私たちがどこにいたとしてもそれぞれの場所で母としての役割を果たしていくことができるようになってほしいのです。

私たちの周りには自分の価値観に合わない人がいるかと思えます。その人とどのように接しているでしょうか。自分の想像を超えたことをする人を見ると、「あの人と私は違う」や「あの人はだめな人だ」と決めつけたりしていませんか。小さい頃は心に感じたまま表現していきますので、争いや喧嘩などが頻繁に起きます。しかし大人になってくると自分の考えていることや思っていることを表現せず、自分の内側を隠して生きていくようになります。「うまく生きていく」という言葉に置き換えることができるかと思えます。そして私たちは小さい頃「他所様に笑われるから〇〇しなさい」という事を言われながら育ってきたかもしれません。すなわち人の評価や世間体によって行動が左右されています。また私たちは時に失敗することがあります。失敗をして感じることは人の目です。それは羞恥心の表れです。この羞恥心を持つ事が大きな問題なのです。本来、私たちは自分の果たすべきことを自らが感じる責任感の中で行っていきます。しかし羞恥心をもっていると、苦しみ、悩みという重荷を背負いながら行動することになります。私たちはその心ざわわしい重荷を下ろさなければいけません。（詩篇55：22）神は私たちの事を心配してくださっています。ですから今日、私たちの重荷を下ろしていきましょう。副題になっているホメオスタシスとは恒常性といいます。私たちは疲れたら、寝ることによって回復しようとします。いらいらすれば、それをおさめるようにします。ストレスがあれば、涙を出したりして解消しようとします。血がでれば、止めようとします。体は自己を保つために機能しています。しかし人の心も回復が必要であり、自分の中で行っているかもしれません。ですが、段々と苦しみや悩みが積み重なっていくと、ホメオスタシスが崩壊していき、元に戻ることができなくなります。負うべきでない重荷（痛み、悩み、悲しみ…）を負っていると、本来果たすべきことが果たせなくなります。それによって私たちはこうしたほうが良いと分かっている事ができなくなっていきます。そして自分の事を見えなくなり、自分の役割が見えなくなります。自分が見えなくなると、周りにいる人を見て、裁くようになります。裁くことがストレス発散になっていきます。（マタイ11：28～30）重荷を持ち続けると、ストレスに変化します。例えば家を買うことによって背負うものが出来きます。しかしそれを通して家族の幸せになった時を思い浮かべるとやる気が出、がんばる意欲がわいてくるのです。しかし、私たちは人の目を気にして、自らが壁を作って相手と接しようとします。相手がどのように思っているのかを伺うように生きていくようになります。そのため、相手を試すようなことをくり返します。しかし、試した場合に自分の望むような結果が返ってくることはありません。それで裏切られたと思うようになります。ですから私たちには本来負うべきものを負うために、今背負ってしまった重荷を取り去る必要があります。今日、不必要な重荷を下ろす事ができれば、本来負うべきものを負う事ができ、その荷は軽いために、すばらしい笑顔を取り戻す事ができます。私たちは自分よりも相手が変わってほしいと思ってしまうがちです。それはアダムとエバが犯した責任転嫁の罪に象徴されています。自らの犯した罪を他人に押し付けてしまいます。それを悟られないために、心で思っていることと口から出ることの違いができてきます。私たちは、思っていることを伝えることをせず、うそをついたり、今後の人間関係のために遠まわしの言い方をしてしまいがちです。それを繰り返すと、周りの人は自分を見抜くようになります。子どもの頃から私たちは相手の心を察しながら生きています。それは大人でも同じですが、私たちは本来見るべきものから外れています。これが罪なのです。罪の原語は「的を外す」という意味から出ています。私たちが背負っている重荷が本来見るべきものを見せなくさせてしまい、罪を繰り返していくようになります。ありのままをまっすぐに知ることができずに、曲がって捉えてしまいます。これは非常に残念な状況です。私たちが教会に来てすることは、重荷を下ろして楽になり、笑顔を取り戻し、本来負うべきものを負うことができるようになる事です。本来負うべきものはなんのでしょうか。これが母の心なのです。私は母ではないから関係ないということではありません。私たちの周りを見ていくときに、母の目でみていますか。母の目とは相手を愛して信じる目なのです。私たちは日常生活の中で、周りの人を愛して信じる目を持てるでしょうか。裁きの目で見ていないでしょうか。教会にいる時は自分が変わらなければならぬと思っているのですが、一歩外に出ると相手が変わるように言ってしまうものです。愛し合うべき人同士で仲違いをしてしまうのです。ですから母の日に母に感謝をすることは大事なことです。それに加えて子どもを愛し、信じる母の目を持って周りを見ているのが大切なことなのです。私たちの関わる全ての人に対して、母の目を持って接しようとする努力ができていますか。母の目を持って接する事ができないから「私はダメ」なんではなく、それができるようにする努力が必要なのです。それはこの地上でイエス様の姿を表す事ができるようになるための努力の言えます。ですから私たちは母になるために**①重荷を下ろして安らぎを!!!**神は私たちの事を知っています。心に重荷を抱えています。抱えていないようにフタを閉めて隠そうとします。しかし、完璧に隠せるわけではなく、大抵バレているものです。ですから私たちの重荷を下ろして安らぎを得ていきましょう。教会に十字架がある理由はこれです。私たちが負うべき重荷をイエスキリストが十字架上で背負ってくれました。すべての重荷を背負っているイエスキリストを忘れてしまったら、教会にくる意味がなくなってしまいます。まずは私たちの重荷を下ろしていきましょう。（マタイ11：28～30）そうしないと私たちの負うべきものを負うことはできません。私たちが母になるために**②あなたのすばらしさを知って…**母となった私たちは自分のすばらしさを知ってください。自分の悪いところを列挙することは簡単にできるかもしれませんが。しかし良いところについてはなかなかできません。このように私たちは悪いところばかりを見てしまいがちです。そして悪い部分をみている人は悪い部分を改善しようと思いません。やっていることは自分よりも劣っている人を探して良かったと思うことです。これは劣等感と優越感の中で他人と比べながら生きているということです。他人と比べないために、自分の良い部分を知りましょう。神が人を造ったときは「非常に良かった」と言っています。私たちが母になるために**③すばらしさを見ましょう**。人は目の前に起こることをみて判断しがちです。悪い状況があれば、悪い人だとレッテルを張ってしまうものです。しかし母というものは子どもを愛し信じ続けています。いつでも「あなたは素晴らしい」と信じてくれています。私たちも自分の素晴らしさに気づいていくと相手の素晴らしさに気づくことができます。そして相手の素晴らしさを見ていくことができます。今日、母について学んできました。まずは私たちは重荷を下ろして安らぎ、神の愛によって育まれる事を知りましょう。そして今度はそれと同じことをしていくために、母の見方を通して学んだことを行っていきましょう。私たちの周りには何も期待されず、希望を持ってない多くの人がいるのですから。（要約者：平澤 一浩）